

所属	心理学研究科 現代心理学専攻 修士課程	修了年度	2021 年度
氏名	鈴木 碧維	指導教員 (主査)	河野 理恵

論文題目	大学生の母子関係における役割逆転がネガティブな諸特性に与える影響
------	----------------------------------

### 本文概要

【問題・目的】近年、女性の就業率は 66.0% になり、男女雇用機会均等法が施行されてから女性の社会活躍が進んでいる（内閣府，2017）。このような女性の社会進出とともに親子，特に母親と子どもの問題が多様化している。特に虐待の研究から提唱され、注目を集めている概念として、「役割逆転（role reversal）」がある。山田・平石・渡邊（2015）は役割逆転について、(1) 親が子どもに対して情緒的サポートを与えない、(2) 子どもが親に対して情緒的サポートを与える、(3) 親は子どもに過剰な期待を課す、(4) 親は子どもに対して屈折的な甘えを呈する、という 4 つの特徴を指摘している。これまでの研究において、役割逆転が生じている若者や大学生にはネガティブな特徴が示されており、様々な葛藤が生じていることが考えられる。そこで本研究では、大学生の母子関係において群分けを行い、役割逆転群に焦点を当て、他の群と比較することにより、役割逆転群におけるネガティブな諸特性の特徴を明らかにすることを目的とする。仮説は以下の 4 つとした。(1) 役割逆転群は、悲観主義の傾向が高い。(2) 役割逆転群は、自分らしくある感覚（本来感）が低い。(3) 役割逆転群は、何事も完璧にこなそうとする完全主義の傾向が高い。(4) 役割逆転群は、セルフ・ハンディキャッピングを用いる傾向が高い。

【方法】調査対象者：関東圏の大学に通う大学生 328 名（男性 119 名，女性 207 名，その他 2 名）に Web 調査を行った。平均年齢は 20.11 歳 ( $SD=1.26$ ) であった。調査内容：①役割逆転尺度（山田他，2015）16 項目 5 件法。②防衛的悲観主義（宮近，2005）10 項目 7 件法。③本来感尺度（伊藤・小玉，2005）7 項目 5 件法。④多次元完全主義認知尺度（小堀・丹野，2004）15 項目 4 件法。⑤日本語版セルフ・ハンディキャッピング尺度（沼崎・小口，1990）23 項目 6 件法。⑥フェイスシート。

【結果・考察】役割逆転群を抽出するため、役割逆転尺度における下位得点をもとに大規模ファイルのクラスター分析を行った。その結果、母子円滑群、役割逆転群、母子疎遠群が抽出された。次に、3 つのクラスターを独立変数、ネガティブな諸特性を従属変数とした 1 要因の分散分析を行った結果、役割逆転群は母子円滑群よりも防衛的悲観尺度得点が高く、仮説 1 は支持された。役割逆転が生じた場合、母親から見守ってもらえている、認めてもらえているという実感がないために自信がなく、不安傾向が高いために親の意に添うように行動し、意に沿わない行動や考えにならないように失敗する可能性を考え、物事に対して慎重に考慮する姿勢をとるのではないかと考えられる。また、役割逆転群は母子円滑群よりも本来感尺度得点が低く、仮説 2 は支持された。役割逆転が生じた場合、親へ情緒的サポートをすることに注力してしまい自分のことが疎かになり、本当の自分がわからなくなったのではないかと考える。さらに、役割逆転群は母子円滑群よりもミスへのとらわれ尺度のみ得点が高く、仮説 3 は部分的に支持された。役割逆転が生じた場合、親の期待に応えなくてはならないと気負ってしまい、自分の能力に見合わない結果を求める、失敗を恐れるということが考えられる。最後に、役割逆転群は母子円滑群よりもやれない尺度のみ得点が高く、仮説 4 は部分的に支持された。役割逆転が生じた場合、親からの期待に応えることや親をサポートするために注力して、それが不可能である場合には何らかの言い訳をしてやれないことを正当化したり、自らの意思より親の考えを優先し、指示を待つためによりやれない状況が生じてしまうことが考えられる。今後、役割逆転と様々な特性の関連を検討することにより、支援のあり方や有用性などに関する知見をさらに得ていくことが必要である。

